

## この世ではなく神の国を マタイ5:1~12 / 李正雨師

私たちクリスチャンは、死というものを一般の人々とは違って受け入れます。もちろん、死が恐れなかったり、不老不死を夢見るのではありません。表面的には、私たちにとっての死も、他人の死とそんなに変わりません。しかし、死に対する姿勢や考えは、信徒ではない人とは違います。私たちは、私たちの死後に違う世界、神の国を迎えるのだと信じています。それで、この信仰によって、私たちは神の国で永遠に生きると信じます。私たちは、これを復活と呼びます。死は恐れ、死なないことでもありませんが、私たちは復活します。そして復活した私たちは、神の国に入り、そこで永遠に生きるのです。

だから、私たちの先祖が天国にいるというのは、死んだ先祖が天国にいるのではありません。生きている先祖がイエス様と一緒に天国にいるのです。死んだ人のようにものも言えず、ものも思わない人が天国にいるのではなく、話しも思いも感情も感じられる人々が天国にいるのです。これが私たちの先祖に起こったことであり、今後、私たちにも起こることです。それで、これを記念するために、私たちは今日ここに集まりました。私たちの先祖の信仰を覚え、私たちを導いておられるイエス様を称えるために、全聖徒主日として集まったのです。私たちの先輩たちに臨んだ神様の恵みが、私たちにも臨みますように願います。

今日、私たちに与えられた福音書は、私たちの信仰の先輩と私たち、すなわちイエス様の弟子たちに与えられた言葉です。イエス様は、ご自分に従う弟子たちに、幸いなことについて教えてください。今日の福音書1-2節です。「イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた。」今日の福音書は、イエス様の山上の説教の中で書き出しの言葉です。それで私は、この箇所を読んだとき、群衆を見られたイエス様が山の丘に上がられ、丘の下に集まった群衆に向かって大声で説教される様子を想像しました。ところが、今日の福音書を読めば読むほど、今日の福音書は、群衆に向けた説教ではないように感じました。今日の福音書の次の言葉13節からが、群衆に向かった説教であり、今日の福音書は、群衆ではなく弟子たちのための言葉であると感じられました。なぜなら1~2節によると、イエス様は山に登って腰を下ろされ、弟子たちがイエス様の周りに近く寄って来たからです。もし群衆がイエス様の周りに近く寄って来たなら、福音書には、弟子と書かず群衆と書いてあったでしょう。さらに、今日の福音書と13節からの言葉は、性格が微妙に違います。今日の福音書は、幸いとイエス様に関する言葉ですが、13節からの言葉は、当時の律法と律法が語っている行いに関する言葉であるからです。

それで私は、イエス様が山上で群衆に説教される前に、ご自分の前に集まった弟子たちに、弟子たちだけのための説教をしてくださったと思います。何を神様が望まれるのか、弟子たちは何を求めなければならないのかを教えてくださいました。これがまさに幸いな人についての言葉であり、弟子たち、私たちクリスチャンがこの世で求めなければならないことです。これは、全部で8つの文章になっていて、最後は、イエス様に関する幸いについて語っています。まず、8つの文章の幸いについて調べてみましょう。3節の言葉です。「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。」

心の貧しいということは何でしょうか。ここについての解釈は、学者、牧師によって違います。ある人は、これを貧しい人の心だと解釈し、ある人は被害を受けた人だ、ある人は心が打ち砕かれた人だと解釈します。イザヤ書61章1節によると、「主はわたしに油を注ぎ、主なる神の霊がわたしをとらえた。わたしを遣わして貧しい人に良い知らせを伝えさせるために。打ち砕かれた心を包み、捕らわれ人には自由を、つながれている人には解放を告知させるために。」と書いてあります。このように書いてあるので、心の貧しいについての解釈はみんな違うようです。私は、すべての解釈が適していると思います。神様は、弱くて、疎外され、被害を受けた者の神様であるからです。

それで、私は「心の貧しい人」という言葉よりも、彼らに何が与えられるのかについて注目してみました。心の貧しい人に何が与えられるでしょうか。神の国が与えられます。私は、この報いがとても特別だと感じました。なぜなら、この報いは、私たちクリスチャンが究極的に目指しているものだからです。この3節の言葉だけでなく、10節の言葉、10節の報いも、神の国が与えられることを語っています。10節の幸いな人は「義のために迫害される人々」です。イエス様は、心の貧しい人と義のために迫害される人には、神の国が与えられると言われました。これは、8つの文章の幸いの中で、最初と最後の御言葉であり、残り6つの文章の幸いは、神の国が与えられる幸いの中に入っています。

残り6つの幸いについて調べてみましょう。4～9節の言葉です。悲しむ人は慰められ、柔和な人は地を受け継ぎます。義に飢え渴く人々は満たされ、憐れみ深い人は憐れまれます。心の清い人は神を見、平和を実現する人は神の子と呼ばれます。この6つの幸いも、これを受けるのも、本当に素晴らしいことです。ところが、私はこの6つの幸いは、クリスチャンが究極的に目指していることの中にすべて入っていると思います。つまり、神の国を目指していく人々は、このすべてを得ることになると思います。今日の福音書に書いてある「その人たちが」神の国を目指していく人々であり、彼らは幸いであると言われるでしょう。そしてイエス様は、神の国を目指していくということを弟子たちが理解しやすく語っておられます。それは11節の言葉によく現れています。「わたしのためにこのしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである。」

先に私は皆さんに、今日の福音書は、イエス様の前に集まった群衆ではなく、弟子たちのための御言葉だと思いと申し上げました。私たちが求めなければならないこと、イエス様が私たちに望まれること。それは私たちがイエス様の道に従うことです。イエス様の言葉に従うことが神の国を目指していくことであり、イエス様に従う人が幸いな人になるのです。このことによって、時には、私たちがこのしられ、迫害されることもあります。身の覚えのないことで悪口を言われることもあります。しかし、このすべてのことを耐えて、イエス様の道に従うなら、私たちがイエス様の精神をこの世で実現するなら、神の国が私たちのいる所に臨むでしょう。天の報いが私たちに与えられるのです。今日の福音書12節で、イエス様はこう言われます。「喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。」

私は、私たちの信仰の先輩たちも、このような道を歩いたと思います。過去のイエス様の弟子たちや初代教会の人々のように、直接的な迫害は受けなかったかもしれませんが、しかし、イエス様によって起こったすべてのことを耐えたので、今の私たちがいるのだと思います。今はお亡くなられたのですが、私を信仰的に育てられた牧師先生のことを、思い出してみると、彼の苦難と忍耐がどれほど偉かっただかが分かります。今、ここにおられる引退された牧師たちも同じです。この方々のおかげで、今の私たちの教会があるのです。牧師のおかげだけではないでしょう。この前に置かれた写真、亡くなられた私たちの信仰の先輩たち、またご年配になられて、今は教会の仕事から一步離れています。数十年前この教会を守ってきた教会の先輩の方々がおられたので、今の私たちが信仰を守ることができるようになったのです。70年の歴史は、ただで成ったのではないと思います。信仰の先達たちの汗と涙、苦難と忍耐があったため、成ったのです。

この世の多くの人々は、私たちのことを理解できないかもしれません。彼らにとっては、自分たちの人生に忠実であることが、神の国を目指すこと、イエス様の言葉に従って生きることよりも大切だからです。しかし、私たちにとって、弟子たちにとっては、イエス様に従うことは何よりも大事です。これに命があり、これを通して私たちは神の国に入るからです。イエス様に従うことは、楽しいことばかりではありません。耐えなければならないことも、我慢しなければならないこともあります。しかし、これによって私たちの先祖は、今も生きており、私たちも永遠に生きるでしょう。この世ではなく、神の国を求める皆様に天の報いがありますように。皆様を通して神の国がこの世に臨みますように、主の御名によって祈ります。アーメン